

就任のご挨拶（要旨）

（公社）日中友好協会会長 丹羽宇一郎

2015年6月18日



協会創立 65 周年祝賀会就任
あいさつを行う丹羽会長。6
月 18 日

私は 30 代の頃から中国に出入りしている。だから、日中両国が何とか仲良くなるようにしたい、という強い思いがある。あと何年、生きられるかわからない。身を挺して最後のご奉公をしたい、もう一度トライしたい、と思った。この気持ちは中国大使を引き受けた時と同じだ。

日中関係において常に思うことがある。外交で本当に困った時は「キューバ危機」を思い出せ、と。当時のケネディ米大統領とフルシチョフ・ソ連第一書記はああいう形で危機を乗り越えた。政治家として極めて立派な振る舞いだった。制服組と官僚に任せれば、行き着くところは戦争になる。お互いが常に最悪の事態を想定しては戦争の道しかない。

では、そうならないためにはどうするか。戦争をして片方だけが正しいといういことはない。両者とも反省すべきことがたくさんある。（日中関係が）望ましい姿になるためにはどうすべきかを考え、外交、付き合いを行うべきで

ある。ここで3つほど話をしたい。

まず、私たちはやはり 1972 年の日中国交正常化における共同声明の精神を思い出すべきだ。当時の田中角栄首相は第 64・65 代総理、現在の安倍晋三首相は 97 代目になる。この 43 年の間にどれだけの人々が日中友好のために努力してきたか。何千万という日本人と中国人。歴代の、日本の首相と中国の国家主席、幹部たち。耐えがたきを耐えながらやってこられた皆さんの気持ちが水泡に帰し、両国が仲違いするなど決してゆるされることではない。同時に、両国の首脳がそうさせる権限もない。これが歴史の重みというものである。

中国の第一期習近平体制は 2017 年に任期を終えるが、この年は日中国交正常化 45 周年に当たる。40 周年の時は数百を超える日中交流イベントが延期、そして中止となった。双方のどれだけ国民が悔しかったか。当時、私も中国大使として非常に悔しい思いをした。だからこそ、17 年の 45 周年は何としても日中の共同事業をたくさんやりたい。そのためにぜひ、皆さんの協力をお願いしたい。次に、私は習近平主席に何度もお会いした

ことがあるが、その度に習主席は、「中国と日本は住所変更ができない夫婦以上の関係です。そうであれば、仲良くするしかありません」とおっしゃっていた。私はこの言葉を決して忘れていないし、習主席も確実に覚えている。様々な情勢の中で、現在はなかなか難しいこともある。しかし、やはり日中は仲良くするしかない。習主席の気持ちはきつこうだと思う。だから私たちも、両国国民の力で、両国の友好を盛り上げる必要がある。一人一人の国民が努力する必要がある。

最後に、今から1800年ほど前の中国の三国時代、劉備玄徳が残した遺言の中に「悪は小なりとこれを為すことなかれ、善は小なりとこれを為さざるなかれ」という言葉がある。小さな悪だからといってやってはいけない、小さな善だからといってやらずにいてはいけない、という意味でこの2つは私の教訓になっている。

それぞれ立場に違いがあろうとも、一人一人が日中両国のために、どんな小さなことでもいいからやる。悪いことなら、どんな小さなことでも避ける。これこそが、日中両国民の力で、両国の友好を発展させる、一番の近道だと思う。この3つを頭に入れながら、日中友好がさらに確かなものになるよう努力していきたい。